全國農民組合福岡縣聯合會 結成大會 報告 議案

昭和七年十月十七日午後一時
企救郡企救町紀念館

大會順序

開會ノ辭
農民歌合唱
議長、副議長選擧
書記任命
加入組合解消宣言
代議員歡迎ノ辭
答辭
大會執行委員選擧
祝辭、祝電報披露
合同狀勢報告
議事
一、規約草案
二、協同組合の件
三、農民學校ノ件
四、秋季斗爭ノ件
五、運動方針ノ件
六、社會大衆黨支持ノ件
七、財政ノ件
八、ファッショ打倒ノ件
宣言綱領發表
役員選擧
役員代表挨拶
萬歳三唱
閉會ノ辭

綱領草案

一 組合の闘爭により働く農民の生活を保證する如き小作條件の獲得を期す
二 働く農民に土地の利用の完全なる權利を確保する土地制度の制定を期す
三 小作農、農業勞働者、小作兼自作農を組合に團結させ、全國的組織の完成を期す
四 農村無産大衆をして、封建的資本主義的隷屬思想より獨立させ都市の勞働階級と協力し新社會建設を期す

宣言

擧國一致を假裝する軍閥、官僚ブル政黨の野合たる齋藤内閣は、遊食地主救濟の政府モラトアム法および救農土木事業なる名による請負師と事業屋と政黨の救濟にお茶をニゴし、自力更生なる逃げ口上にかくれて、農村不安を放置してゐる

かゝる狀態の下においてこそ、勤勞農民 集結たる全國農民組合は、大衆の組織と闘爭とを通じ、都市勞働者階級の指導提携のもとに、大衆の日常生活の擁護防衞と資本主義打倒のための大衆的主體勢力の確立に向つて邁進すべき絶好の任務と機會とを與へられてゐるのだ

吾等は、かゝる認識に立ち斷乎たる決意を以て、吾等の内部陣營を整備すると共に、全縣下百萬の農民に向つて絶叫する

小作料減免、土地防衞、借金整理、稅金廢減等生活窮乏打開のため起ち上れ、全農の旗の下に吾等と共に進め

右宣言す

昭和七年十月十七日

全農福聯
結成大會

全農一覽

一 總本部—大阪市北區上福島三丁目五四
二 關東出張所—東京市芝區 櫻田 善右衛門町榮和ビル
三 北海道聯合會—旭川市九條通十二丁目左四號
四 青森縣聯合會—青森市浦町橋本二九
五 秋田縣聯合會—橫手町上飛瀨
六 岩手縣聯準備會—岩手縣盛岡市二日丁
七 宮城縣聯合會—仙台市東七番地一三三
八 山形縣聯合會—山形縣 西置賜郡 東根村淺立
九 福島縣聯合會—福島縣伊達郡飯野町
十 栃木縣聯合會—栃木縣宇都宮市塙田町一四〇
十一 茨城縣聯合會—茨城縣結城郡水海道町寶町
十二 千葉縣聯合會—千葉縣成田町
十三 群馬縣聯合會—群馬縣前橋市岩神町八二
十四 埼玉縣準備會—埼玉縣北葛飾郡吉田村
十五 東京府聯準備會—東京府八王子市仲町一一
十六 山梨縣聯合會—山梨縣本八代郡石和
須坂町
十七 長野準備會—長野縣須坂町
十八 靜岡縣聯合會—沼津市追手町四〇九
十九 新潟縣聯合會—新潟市流作山場一七一三
二十 福井縣聯合會—南條式生町平出
二十一 岐阜縣聯合會—岐阜市高野町七丁目
二十二 愛知縣聯準備會海部郡立田村早尾
二十三 和歌山縣聯合會—和歌山市新堀町七ノ十二
二十四 京都府聯合會京都府富小路四條上ル
二十五 滋賀縣聯合會大津村
二十六 大阪府聯合會比茄區上福島三丁目福島アパート
二十七 兵庫縣聯合會三原郡洲本町山崎
二十八 岡山縣聯合會岡山市原尾島龍正寺門
二十九 廣島縣聯合會世羅郡神田村
三十 鳥取縣聯合會—鳥取縣西伯郡縣村河岡
三十一 島根縣聯合會能義郡母里村
三十二 山口縣聯合會都濃郡德山町東橫手三五四七
三十三 德島縣聯合會麻植郡西尾村西麻植
三十四 愛媛縣聯合會上杉山市豊坂町一ノ五五
三十五 高知縣聯合會吾川郡森山村
新川
三十六 福岡縣聯合備會—小倉市
三十七 大分聯合會直入郡竹田町
三十八 佐賀縣聯聯合會唐津市
三十九 新田支部宮崎縣兒湯郡新田村
四十 郡築支部熊本縣八代郡郡築村八番割
四十 鹿兒島縣聯合會姫良郡清水村

全農の歴史と位置

一 最大の組合

全國農民組合（略して全農）は昭和三年五月、その頃の二大組合だつた日本農民組合と全日本農民組合とが、農民戰線統一の大目的のために大阪で合同大會をあげて出來た組合である。この日農（今の日農とは違ふ）は、大正十一年神戸で杉山、賀川氏等が創立した日本で一番古い組合であるから、その精神をうけついだ全農が結局日本最古の組合といふワケになる。

全農は昨年全會派が分裂孤立して行つたのちすぐ、未組織の農民を加入させるやら、單獨組合を合併するやら流された戰線を再建するやらにしたので忽ち組合員もふえ昭和七年十月の計算で、十萬七千名となつてをり、支部の數が千二百七十八支部で一道三府三十五縣に亘り聯合會が確立し全農の大旗がヒラめいてゐる。

二 農民と組合數

日本の農民はザット三千萬人で、小作人がその七割の二千萬人、小作兼自作が四百萬人、自作農が四百萬人、五町以上の地主が九十萬人、農業勞働者（日雇人夫）が四十萬人といふことになつてゐる

この三千萬の中で農民組合に加入してゐる人々は僅か三十萬人にすぎない。その三十萬人も全農所屬の十萬人をのけるとあとは大中小四千六百のくみ合に分散してゐる

今の日農は山梨、富山、福岡の三縣にしかないが合せて百十六支部九千六百人だ。

全會（全國會議派とも云ふ）は自稱一萬人だが、實は福岡、佐賀、兵庫、岡山、三重、奈良地方にちらほらあるだけで、實數五六千をこえない。その證據には全國大會等を堂々と開くだけの實力を持たず今年の如きは僅か二十二名の各縣代表者が「大會」と稱して會合し、小作人に重大な關係のある闘爭方針などを、組合員大衆のみてゐない秘密の場所でコソ〳〵ときめてそれをオシつけてゐる少數インテリ專制組合である。

このほか一村限りの小組合や一郡又は一縣限りの單獨組合が四千六百個もあるが、貧乏になやむ二千數百萬の小作人はまだどの組合へも加入してゐない次第である。

三 擴大は强化だ

「人數がフエればケンカも强くなる」（量質轉換の法則）のタトへの如くトモカク、くみ合員をたくさんつくらねことには地主とのケンカも勝目は少い。ソコで全農としては（一）どんな小心な小作人でも安心して加入できるやうに入り口を[illegible]して[illegible]（二）全國に小組合が四千六百も分散してゐるのはムダなことだから、小組合の組合員が進んで合流して來るやうに門戸を開放してをく、この二方針で組織を進めてゐるのである

四 孤立の全會

全會派とは、正確にいへば日本共產黨農民全國會議といふべき類で小作爭議など勝つても負けてもどうでもよい。むしろ負けた方が小作人の反抗心が高まる、そして農民組合員の全部を共產黨とみなして革命的政治闘爭へ狩立よう」とするのが、その指導方針である。卽ち、大衆的農民組合と前衞的勞働者黨とを混用してゐるのだ。

全會派はどうして出來たか。一昨年の全農大會以後昨年の全農大會まで、この一派は全農總本部の書記などしてゐたが文學靑年の常として、政黨支持の如き本質論にのみ興味を持ちすぎ、カンジンの全農の任務たる爭議統制や犠牲者救援等の日常仕事は指導し得ず、折角日農と全日が合同し、全國的單一組合になつたのに再び各縣バラ〳〵の分權的傾向に落し行かん形勢になつたため、昨春の全國大會では出席代議員から、サンザンに批判され、遂に中央部から引退を命ぜられた。ソレがソモ〳〵シヤクのタネとなつて、新幹部への反抗、中央體たる總本部そのものを否定するやうな、メクラ主義、（ブランキズム）におちこみ、ガヤ〳〵と騒ぎ出したのが事のはじまりで[illegible]たこさかしきりクソをつけてゐるのは、要する[illegible]感情本位の[illegible]理論で[illegible]飛び出し[illegible]アトになつて[illegible]ひっいてッペコペといってるのにすぎぬ。

そのショウコには分裂孤立以來おシヤベリの彼等が、トウシヤ刷ずりで、しきりに配布した運動方針なるものが、僅々十ヶ月間にクルクルと猫の目の如く四回も變つたのをみても、いかに確信なき他力本位の公式主義者であるかが判る。

四回變化の指導理論とは、第一が全農脫退農民協會設立案で之は二ヶ月ほどで消へ失せ、第二には第三インター直系の赤色農民組合案で、之も實現不可能と判つて二ヶ月で流產、第三は全農に踏み止まつて反幹部運動で行かうといふ革反論で之はやゝ本格的なものだつたが地味だから葬られ、最後に到達したのが、全國會議派といふ別個の組合をつくり、本部を東京に置き、委員長や常任委員をも獨立して任命し、機關紙も總本部のを拒否して勝手に發行するといふ自發的分裂獨立論であつた卽ち全然別離して行つたのだ。

これならもう誰もトガメはすまいと安心してゐたところ、案外にも彼等が絶對服從してるロシヤの國際赤色農民組合（クレスティンテルン）が本年、實にやかましい批判を下した、卽ち

「單一組合を自ら脫退して別個の團體を造るのは感情本位の分裂主義だ、卽刻[illegible]全農に復歸すべし」との嚴命だ、無理論的指導者（ブ[illegible]）テイオスドリー（メ[illegible]）にとつて[illegible]正に死刑の宣告である

白東組の如く、新選組の如く左翼を笠に着て何でも彼でも自分等のする事は正しいときめてかゝつてゐた全會の指導者もサスガにこの批判にはガタ〳〵ふるえ出し、今年六月以降の全會派の混亂ぶりは全く目もあてられぬくらゐである

先づ全會派の書記長たる本庄は、左翼にサヨナラをして同志三十餘名と國家社會主義研究所へ走れ田代と變名して活躍し出した（最近スパイだとのショウコ上り、そこからさへ除名された）

次は大阪の赤松だ、コイツは兄の赤松にスガりつきファッショの足輕となつて命乞びしてる

新潟の全會を牛耳つてゐた稻村も「客觀的狀勢がかわつたから」とか何とかいつて、國社系聯合會書記長に早替りした、群馬の本間も「夢がさめた」とかホザイて降參脫落した

中にはさすがに自己の誤ちを淸算し再び全農へ復歸を願ひ出づる勇氣のめる者も出た、京都の指導者だつた森、奈良の中心人物だつた叶、東京の指導者だつた青木等々である、福佐出身の石田も前議會中しば〳〵、杉山委員長を訪れ陳謝しかへりには小遣ひ錢をセビつてゐる

つまり全農から飛び出した全會派は[illegible]出した十八娘がイロ男にソソノかされて家名を傷つけた擧げ句兩親からは勘當されイロ男の本家からもキツイお叱りが出て、家へも歸れず先へも行けず、トド、ヤケクソになつてカフエーファッショの女給となり地主資本家へエロサービスをしてゐる形である、いつになつたら改心するやら泣いてゐる親と似て本部は終始無[illegible]運動の大道を行進するのだ。

讀め
全農の機關紙
「土地と自由」
毎月廿日發行
一部 五錢
一年 六十錢
申込は福聯書記局へ